

私の目指す弁理士像

No. 70

会員 長賀部 雅子

現在新人研修の真っ只中にあり、受験勉強期間中に会った人達と、今度は「同期」という違った状況で再会し、新たな発見と驚きを感じている今日この頃です。

さて、そんな中、「私の目指す弁理士像」とは？ という難題と向き合っています。

そもそも、弁理士を目指すきっかけとなったのは何だったのだろうか？

大学時代、ろくにアルバイトもしたことのない私が、きっとすぐにお嫁に行ってしまうだろうと思われていた私が（現在の私を知っている人は大笑いしていると思いますが）、まさか弁理士受験などという険しい道を選択するなんて、と周りの友人達を驚かせました。

思えば、「そんな険しい道」を選択する直接の要因となったのは、あるとき病院で精密検査を受けなければならなくなったことにあります。病院嫌いの私は、総合病院の雰囲気ですっかり圧倒され、もう自分はあと半年の命しかない気分で待合室に座り、「もし検査の結果何でもないことがわかったら、人生のうち1度くらい死ぬ気でがんばってみよう」と迷っていた弁理士受験を決心したのでした。そして、検査の結果、問題なしと告げられました。

先輩弁理士先生の嘆きが聞こえてくるようですが、どうか長い目で見てやって下さい。

大学時代の友人達が誰も想像していなかったにもかかわらず弁理士試験に合格したのと同じように、現在では誰も想像できない弁理士に将来なっていないとも限らないのですから。

弁理士法の改正により、弁理士の業務範囲が拡大され、それに伴って、必要とされる弁理士も刻々と変化しています。新人研修の間もこの話題で持ちきりでしたが、この変革の時期に身を置くことができることを、実は大変幸運だと思っています。

私の目指す弁理士像とは、時代に必要とされる弁理士になることであると感じています。そのためには、時代の流れを読み、常に自分を成長させる努力が必要ですが、現在その努力をしている最中です。

しかしながら、先ほども言ったように、将来を予測することができないのが人生です。果たして将来この努力は実を結ぶのでしょうか、それとも、全く別の道を歩んでいたりするのでしょうか。あるいは、迷いながらも実はちゃんとあるべき道を進んでいるのでしょうか。

誰も色々な可能性を持っていて、それを信じて我が道を進んでいく、それが現在の私の目指す弁理士像かもしれません。

誰も想像できない未来の自分を楽しみにしつつ、自分の可能性を信じて時代が求める弁理士像を目指します。